

おおさか維新の会

熊本県熊本地方を震源とする地震対策本部

視察団報告書

平成 28 年 4 月 15 日 (金)

熊本県熊本地方を震源とする地震対策本部視察団

団長 室井邦彦 (本部長代行)

河野正美 (本部長代行)

下地幹郎 (副本部長)

《行程》

11:45 羽田空港発 (JAL627) → 13:30 熊本空港着

震源地である益城町の中心部を視察

益城病院犬飼理事長との意見交換

熊本空港解散

《視察の経緯及び趣旨》

平成 28 年 4 月 14 日、熊本県は震度 7 の地震に見舞われたため、

翌 15 日に緊急の幹部会を開催し、今後の方針を決めた。

その中で、被害状況を一刻も早く把握するために現地に赴き、

被災地住民の声を直接見聞して、党としての対応を迅速に検討する

こととなった。

13:30頃 熊本空港着



河野本部長代行がご用意いただいた車に乗車して、震源地である益城町中心部へ向かう途中、交通渋滞のため、徒歩で向かうことになった。



地震で家の塀が崩壊した住人の方から被害状況を聞いた。

14:10頃 益城町中心部(町役場)に到着
倒壊する家屋、傾く家屋が数多くあった。





被災者の声：

余震が頻繁に発生している。家の塀が倒れているが、これは余震が原因で倒れたため、怖くて家では寝られない。

家が崩れ落ち、後何秒か遅ければ下敷きになるところだった。九州に来て46年になるが、このような大きな地震は初めてだ。

被害者の方からの声を聴いて

室井本部長代行：

新たなスタートを切ってもらうためにも、国等からの補助をしっかりとってもらうよう、半壊・全壊の判断を早急に対応してもらいたい。被災者の皆様が新たな活動をしてもらうことが、我々国会議員の仕事だと思っている。そのためにも、地域住民の声をしっかりと聞いて、政府に呼びかけたい。

河野本部長代行：

まずは現状の把握をしっかりとやらなければならない。まだ余震が続いている状況であるし、呆然とされて、精神的に落ち込んでいる方もたくさんいると思う。心のケアも含めて十分なフォローをしていかなければならない

下地副本部長：

党として早急に現場に入り、様々なことを見たので、これはただ事ではないと感じている。ハード面だけでなくソフト面も含めて、我々がしっかりと対応を考えていかなければならないと思っている。



下地副本部長：

緊急事態の交通整理について、一般車両を制限し、緊急事態に備えたバスなどの運搬システムを構築する事で、被害者への迅速な対応を行う必要性を感じた。



16:00 交通渋滞のため、益城病院へ徒歩で向かい、犬飼理事長から話を伺った。



病院での現状：

- ・備蓄の薬品や食料が底をつきかけており、早急な補充が必要。相次ぐ余震により避難所利用者が急増し、物資も追いつかず収容も困難。
- ・益城病院のスタッフの中には自宅や家族が被災している者も多く、人員不足や交代が望まれる。

被災地の現状：

- ・避難所での支援物資配給の差
- ・盗難被害が報告されている為、治安維持対策が急務
- ・トイレ不足問題

現場での課題が多く見受けられた。